令和6年度から新しい「教養教育」が始まります

本学の教育目標は、高度で普遍的な教養を身につけ、専門的な知識・技術を習得した行動力のある専門的知識人・技術者を育成することです。

この目標の下に、従来の基礎教育では、平成 26 年策定された「宮崎大学の新学士課程の教育編成の基本方針」に則り、大学で必要な基礎的能力を養成する「導入科目」、アクティブ・ラーニングによる学生の主体的な学びを特徴とする「課題発見科目」、課題発見科目で身につけた知識・スキル及び態度・志向性を発展的かつ総合的に学ぶ「学士力発展科目」の、3 区分のカリキュラム構成による学修を進めてきました。

令和６年度以降も基本的な考え方は継承していきますが、大学教育に今日求められている文理融合教育や STEAM 教育＊[1]、課題解決型教育を推進し、SPARC 教育プログラム＊[2]にもとづき、地域社会と大学間の連携を通して、地球規模の課題を俯瞰的にとらえる構想力と、地域社会が抱える諸課題を解決に導く実践力をもって地域を牽引していく人材の育成を目指して、名称を教養に専門を積み上げる「基礎教育」から、教養と専門を往還的に学修する「教養教育」に変えるとともに、カリキュラムを大幅に改編しました。

新しい教養教育は、専門教育との接続をより強化した「導入科目」、アクティブ・ラーニングによる課題発見型の学びを従来の学士力発展科目にも広げた「課題発見科目」、SPARC 教育プログラムの主旨にもとづく「未来共創科目」の 3 区分で構成されています。

特に「課題発見科目」については、「データサイエンス系」、「人文・社会・芸術系」、「自然・生命・技術系」、「地域・国際・学際系」の４つの系に再編し、各系の科目を横断的に履修することで、文理融合教育・STEAM 教育を実現します。さらに「構想・デザイン系」と「協働・創造系」の２系で構成された「未来共創科目」では、高年次にも科目を設定し、「課題発見科目」と併せて教養と専門との往還を促進していきます。

このように、幅広く多様な知識、スキル、態度の習得を目指す教養教育では、初年次から卒業年次までの長期にわたって繰り返し往還的に学修することによって、学習内容の定着を図りながら、さらなる学士教育の充実と深化を目指します。

そのためには、全学出動態勢の実質化が欠かせませんので、教員の皆様には、いっそうのご協力とご支援をお願い申し上げます。

＊１　STEAM は、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art・Liberal Arts(芸術・人文学)、Mathematics(数学)の頭文字を組み合わせた略称。200０年代に米国で始まった統合的な理数教育の STEM に対して、J.プラッツ(NPO 法人オハイオ芸術教育同盟)が“STEM into STEAM”という表現で異議を唱えたことに始まる。中央教育審議会答申(2021.1.26)では「STEAM の A の範囲を芸術、文化のみならず、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲(Liberal Arts)で定義し、推進することが重要である」という考え方が示された。

＊２　SPARC は“Supereminent Program for Activating Regional Collaboration”の頭文字を組み合わせた略称

令和6年度以降の学士課程編成の方針

平成25年度の方針を継承し深化させる。

■「宮崎大学の新学士課程教育編成の基本方針」（平成25年6月24日教育研究評議会決定）

（新しい環境変化を見据えた人材像の再定義）
地球規模で考え、自らの力で未来を切り拓くことのできるたくましい人材**（未来共創人材）**を養成する。

（教育方針の明確化）
本学の教育理念に照らし、「学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラムポリシー）、「入学者受入れの方針」（アドミッションポリシー）を明確にする。

（教育課程の体系化）
教養教育、専門教育といった区分にとらわれず、学生の学修成果という観点から、課程在籍期間（4・6年間）の教育活動全体を通じて教育課程を編成する。

（主体的な学びへの転換）
ディスカッション、ディベート、グループ活動、プレゼンテーションなどを中心とした能動的学修（アクティブラーニング）やICT活用などの教育方法を積極的に導入し、学修時間の増加・確保による主体的な学びを確立する。

（教育の質保証システムの確立）
教育課程の体系化、単位制度の実質化、教育方法の改善、成績評価の厳格化などに総合的に取り組み、学修成果や内部質保証の観点から、点検・評価の結果を改善につなげる改革サイクルを確立する。

■ 何を深化させるのか。

・学位プログラム及び教育課程を、地域が求める人材に必要な文理横断型の教育プログラムへと再構築する。
・そのため学士課程を構成する基礎教育を教養教育へ再編成する。

教養教育カリキュラム

教養教育カリキュラム編成の方針

1. 令和6年度から基礎教育を教養教育として文理横断的なカリキュラムに再編成する。

2. 教養教育は**「導入科目」、「課題発見科目」、「未来共創科目」**で構成する。

3. 「導入科目」は**「大学教育入門セミナー」、「情報・データリテラシー」、「英語」、「専門接続系」**の区分で構成し、大学で学ぶための心構えや自己の所属する教育課程の理解、高度情報化時代に対応できる情報処理能力、外国語コミュニケーション能力と専門教育において必要とされる英語運用能力、及び専門教育において必要とされる知識・技能を育成する。

4. 「課題発見科目」は**「データサイエンス系」、「人文・社会・芸術系」、「自然・生命・技術系」、「地域・国際・学際系」**で構成する。本学の第4期中期目標の一部に記載されている「視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する」目標の達成、及びSTEAM教育プログラムを構築する上で中核となる科目群である。

5. 「未来共創科目」は**「構想・デザイン系」と「協働・創造系」**で構成する。SPARC教育プログラムの中核となる科目群で、地域や世界を見る目や幅広く長期的な視点で社会課題に向き合う態度、及び地域をフィールドに様々なステークホルダーと連携したPBL（プロジェクト ベースドラーニング）やアントレプレナーシップを通じて、社会人や地域住民等と協働・共創する力、企業内・地域内の具体的な課題の解決策を提示する力を育成する。

   そのために、**教養、専門分野双方から科目を配置し、学部を横断した履修や、連携開設科目として連携大学の学生が履修できるようにする**。これにより、「課題発見科目」で育成する資質・能力を高度に発展させることを目指す。

6. 教養教育では、SPARCプログラムを深く学修する学生を対象とする発展的なプログラムとして、「SPARC教育プログラム」を提供する。

教養教育カリキュラム編成

令和6年度以降の教養教育カリキュラムの構成

	科目群			配当年次	科目群の位置づけ
教養教育	導入科目	大学教育入門セミナー		1前	【基礎】 大学教育の基礎的な素養を育成
		情報・データリテラシー（情報倫理を含む）		1前	
		英語（外国語コミュニケーションを含む）	com	1前・後	
			ESP	1~2	
		専門接続系		1~2	
	課題発見科目	データサイエンス系		1後~4	【文理横断】複合領域 文理横断の学修を通じて多様な課題を発見し幅広い教養を身に付ける
		人文・社会・芸術系		1後~4	
		自然・生命・技術系		1後~4	
		地域・国際・学際系		1後~4	
	未来共創科目	構想・デザイン系 （キャリアを含む）	低年次	1~2	【分野横断】学部横断 他分野の知見に触れることで、高い教養を身に付ける
			高年次	3~4	
		協働・創造系	低年次	1~2	
			高年次	3~4	